三線の花

二揚

一、いつしか忘れられた
オジーの形見の　三線
床の間で　誕生祝いの
島酒にもたれて

ほこりを指で撫でて
緩んだ糸を　巻けば
退屈で　たまらなかった
島唄が響いた

※鮮やかに蘇る
　あなたと過ごした日々は
　やわらかな愛しさで

◎この胸を　突き破り
　咲いたのは　三線の花

間奏
　歌持ちの二回目から。
　少し短い間奏で二番へ。

二、テレビの斜め向かいの
あなたがいた　場所に
座れば　アルミの窓から
夕月が昇る

家族を眺めながら
飲む酒は　どんな味
眠りに　つく前の
唄は誰の唄

※喜びも悲しみも
　いつの日か唄えるなら
　この島の土の中

◎秋に泣き　冬に耐え
　春に咲く　三線の花

間奏
　歌持ち初めから。歌持ち最後は
　工中上

くりかえしの部分

※この空も　あの海も
　何も語りはしない
　この島に暖かな

◎風となり　雨を呼び
　咲いたのは　三線の花

間奏なし
　工合工　合を省く

◎秋に泣き　冬に耐え
　春に咲く　三線の花

間奏
　歌持ち初めから。ラストは　工五
六五七六工四